【第4回審査会】静岡県環境影響評価審査会委員からの意見等に対する事業者の見解

No.	区分	ページ等	意見等	事業者の見解	意見元
1	土地の安定性	添付資料2 添付資料3 資料資料4	地層の判断根拠とした文献を示すこと。	『熱海図幅地質説明書』久野久1952　及び『土地分類基本調査 熱海・小田原』静岡県1985 年を参考としております。この文献を用いて判断した根拠を添付資料1にお示しいたします。	森下委員
2	土地の安定性	添付資料2	ボーリング柱状図に具体的な年代を示して対比しやすくすること。	添付資料2にお示し致します。	森下委員
3	土地の安定性	添付資料2 添付資料3 資料資料4	層序を作成し、事業地内の地質の面的な不均一性を知ることが土地の安定性を知るためには重要である。準備書では面的な地質図を作成すること。	ボーリング調査や現地踏査の結果を踏まえ、地質分布図（平面図）を作成します。	森下委員
4	土地の安定性		事業区域内には活断層の存在が推定されているので、活断層調査を行ってもらいたい。トレンチ調査を行えば、ある程度明確になると思う。	今後実施する地質調査にて、活断層の位置を把握するように努めます。本事業において、活断層の詳細を調査する必要がありませんので、トレンチ調査までは実施いたしません。 工事の実施中に活断層面が見られると想定されますので、そのような時には、専門家に御確認いただくなどの対応を検討したいと考えております。	森下委員
5	土壌、土砂の流出、堆積		「調整池に流入する土砂の量が、調整池の容量を圧迫するものではない」と判断した数値的な根拠を示すこと。どのくらいの土砂の流入を想定しているのか。	本事業で設置する沈砂池兼調整池の堆砂容量は、工事中の土砂流出量として裸地・荒廃地の場合（300m3/ha・年）＋残置森林(1m3/ha・年)（4ヵ月毎しゅん渫を実施）、工事完了後は草地の場合（１５m3/ha・年）＋残置森林(1m3/ha・年)・（５年毎にしゅん渫を実施）として算出しています。 以上の２つを検証し、流出土砂量が大きい（工事中）を採用しています。よって、工事中でも4ヵ月は土砂を安全に捕捉することが可能となっております。	加須屋委員
6	土壌、土砂の流出、堆積		土砂や水の流出の懸念がもたれている地域であって、調整池の設計は一般的な式に基づいて行っていると思うが、地域特性によって不確実性がある。適切な調査・観測を行って環境への影響を評価すること。	地質調査の結果（流出係数など）や近隣の雨量観測点の観測雨量を踏まえ、安全性について確認いたします。	今泉委員
7	動物	資料２ No106	カワネズミの調査は、かご罠が一般的だが、死亡率が高いので自動観測装置や環境DNAなど捕獲しない方法で実施すること。	カワネズミの確認については、成体の目撃や糞などのフィールドサインも実施してまいりますが、捕獲調査は避け、環境DNA解析を利用した調査を合わせて実施いたします。	小泉委員
8	地下水の変化	資料２ No94	同位体に関しては、しっかりと理解をしておくこと。	同位体につきまして、情報を収集し理解を深めます。	森下委員